

「小樽市鳥獣被害防止計画(原案)」に対して提出された意見等の概要及び市の考え方等

| | |
|----------------------|----|
| 1 意見等の提出者数 | 1人 |
| 2 意見等の件数 | 4件 |
| 3 上記2のうち計画等の案を修正した件数 | 0件 |
| 4 意見等の概要及び市の考え方 | |

| No. | 意見等の概要 | 市の考え方等 |
|-----|--|--|
| 1 | 3「対象鳥獣の捕獲に関する事項」(2)その他捕獲に関する取組で、ヒグマ・トドに対し新たな担い手の育成が設定されているが、他の鳥獣についても盛り込んだ方がよいように思った。 | ヒグマとトドに関しては、獣種特有の危険性や、駆除・防除方法により、担当するハンターが減っている状況があり、新たな担い手の育成が、喫緊の課題となっております。しかしながら、その他の鳥獣については、通常の駆除・防除法によるため同様の記載はしていません。 |
| 2 | 4「防護柵の設置及びその他の鳥獣の捕獲以外の被害防止施策に関する事項」の(2)その他被害防止に関する取組について、エサ不足でエゾシカやヒグマなどが人里に出没しているのを、原因の根本的な解決策として、山に餌となる樹木を増やし、山に留ませる取り組みがあった方がよいように思います。 | エゾシカやヒグマなどが人里に出没している要因の一つとして、木の実などのエサ不足が指摘されておりますが、その対応として、一地方自治体が山へ餌となる樹木を増やし、山に留ませる取り組みを行うことは、難しいものと考えています。 |
| 3 | <p>・5「対象鳥獣による住民の生命、身体又は財産に係る被害が生じ、又は生じるおそれがある場合の対処に関する事項」(1)関係機関の役割について、猟友会と同じスキルを持つ小樽ビーストハンティングクラブも、猟友会と同じ役割を担う方が合理的で機能的だと思ふ。</p> <p>・専業農家も小樽ビーストハンティングクラブの方を指名出来るようにしてほしい。</p> | もともと、小樽ビーストハンティングクラブは猟友会から派生した新たな狩猟団体であり、その創設当初に、鳥獣被害に関する対処について、農業者は猟友会、それ以外は小樽ビーストハンティングクラブが担当する役割分担をした経過があり、現在の体制となっております。よって、今後、両団体の関係性に変化があった場合には、必要に応じて修正を検討していきたいと考えています。 |
| 4 | <p>・8「捕獲をした対象鳥獣の食品としての利用等その他有効な利用に関する事項」について</p> <p>計画の策定がないことが良くないと思いました。小樽で捕獲した鳥獣を食材として利用出来れば、小樽の特産品として観光の目玉となり、他の観光地との差を広げられると思います、ぜひ、食品としての利用を計画して欲しいです。</p> | この計画は、市内で業者が進める鳥獣の食品化の体制構築などを含む、必要な環境整備の措置を整え支援するための計画として記載しております。しかし、現時点の市内のエゾシカ捕獲頭数では、採算面から事業としての成立は難しいとお聞きしており、また本格的な処理関連施設の進出意向や支援に関する相談なども特にないため、必要性が生じた際に検討する、との表記にしております。 |

* 同じ内容の意見が複数ある場合は、「意見等の概要」の最後に件数を記載してください。

* 計画等の案を修正した場合は、「市の考え方等」の欄に修正箇所を併せて記載してください。